

## 日野町建築組合の皆さんが

# 下駄箱の修繕をして ぐださいました

8月20日(木)、日野町建築組合(藤田喜久治代表)の皆さんが、ボランティアで日野幼稚園の下駄箱の修繕をしてくださいました。

建築組合の皆さんは、職人の技をいかして毎年小学校や幼稚園にさまざまなボランティア活動をしていただいています。

今年は日野幼稚園の園児が使っている下駄箱の床板と中段の張替え作業をしていただき、新品のようにきれいになりました。日野町建築組合の皆さん、ありがとうございます。



# 日野中学校音楽部が 近畿コンクールに 出場しました



9月2日(水)NHK全国音楽コンクール近畿コンクールに出場する日野中学校音楽部への激励会が役場玄関前で行われ、部員の皆さんがコンクールで歌われる合唱曲を2曲披露されました。

音楽部は8月6日(木)に守山市民ホールで開催された滋賀県コンクールにおいて金賞を受賞し、近畿コンクールへの出場を手にしました。

また、皆さんは8月16日(日)には滋賀県合唱コンクールでも金賞、しがヴォーカルアンサンブルコンテストでも金賞(審査員特別賞)等、数多くの賞を受けています。

## 綿向雑感

日野町長 藤澤 直広

小さな子どもの手を引いて若いお母さん達が国会議事堂前に集まり「この子を戦場に送らない」と声をあげました。高校生や大学生が太鼓をならしハンドマ

に對して、憲法よりもその時の政府の判断を優先するのであればもはや「立憲国家」ではない、憲法改正が必要だという論は正鵠で

イクを握り「戦争反対」「憲法守れ」のプラッカードを掲げパレードをしています。マスコミ、法曹界をはじめ各界各層、世代を超え安保法制が強行可決された後も反対の世論が広がっています。歴代政府は、憲法9条の「範囲内」として日本が攻撃を受けた場合のみ個別

の国民とアジアの諸国に大きな犠牲を強いた歴史を反省し平和国家として歩んできたこの国の姿勢が問われています。「ピンチ(危機)をチャンス(好機)」という言葉があり、安保法制を強行可決する民主主義のピンチに未来を担う若者が「憲法を守ろう」「民主主義を守ろう」と大きな声を上げ、「あきらめない。これからが正念場」と訴える姿は、この国を真に自由と平和を愛する文化国家にするチャンスでもあります。

的自衛権は、日本が攻撃されないのに他国を「先制攻撃」するものであり憲法上認められないとしてきました。

綿向山を背に豊かに実った稲穂が爽やかな秋風に揺れ、畦道には今年も真っ紅に彼岸花が咲きました。美しいこの町の風景に心が和

こうした政府見解を変える今回の安保法制は、憲法違反であり立憲主義に反するものと最高裁長官や内閣法制局長官の経験者などほとんどの学者・法曹界が反対しています。また、「憲法論だけでは国は守れない」という「賛成論」

みます。70年前、広島、長崎をはじめ主要都市が焼け野原になりました。そこから復興したこの「美しい国」が「政府の行為によって再び戦争の惨禍が起こることのないやう」すべての国民が力を合わせましよう。